

令和3年3月25日

保護者のみなさまへ

令和2年度
川西南中学校学校関係者評価結果および提言について

少しずつ春の気配を感じる日が多くなってまいりました。保護者の皆様方には、日頃より本校教育活動に、ご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、2学期末に学校関係者評価として学校教育アンケート調査を実施したところですが、その結果をご報告させていただくとともに、結果を分析・検討したものを、学校評議会としての学校評価・提言といたします。

川西市立川西南中学校評議会

代表	大矢根 秀明	(PTA顧問)
	吉田 雅紀	(加茂小校区)
	田中 里香	(久代小校区)
	大田 博子	(現PTA)
	高嶋 由美子	(現PTA)

アンケートにつきましては、「目指す生徒像」「学習面について」「学校規律について」の三つの大項目と、それぞれに小項目を設け、

A(大いに当てはまる) B(当てはまる) C(あまり当てはまらない) D(全く当てはまらない)の4段階評価を実施し、それを点数化することにより客観的な分析を行い、学校の現状を把握する方法としました。調査対象は三者(生徒、保護者、教職員)で、経年比較は3年分となります。

また、保護者の方には、昨年度に引き続き学校教育に関しての、ご意見・ご提案をいただきました。

1、アンケートの傾向分析について

(1) 目指す生徒像について

◇良 好 な 項 目…「あたたかい、思いやりを持った生徒」

◆課題のある項目…「あきらめず粘り強く進み続ける生徒」

本校の大きな課題の一つであると認識している。保護者の評価は減少傾向にあるが、教職員の評価は少しずつ上昇傾向であり、今後の動向が注目される。

(2) 3年間の経年比較

ア 生徒評価

◇上昇傾向(前々年度より0.3ポイント以上上昇したもの)

・「家庭学習にしっかり取り組んでいる」(+0.9)

➤ 前々年度より0.9ポイント上昇している。コロナ禍において、臨時休業期間などを経験する中で、家庭での学習が意識されるようになってきたのではないかと考えられる。

◆下降傾向（前々年度より 0.3 ポイント以上下降したもの）

- ・「学校では主体的に勉強に取り組んでいる」（－0.3）
- ・「体育大会や文化活動発表会など学校行事は充実していて楽しい」（－1.5）
- ・「授業や集会など素早く整列できる」（－0.3）

- 新学習指導要領全面実施に向け、主体的に学ぶ姿勢を育むことは重要である。コロナ禍において、話し合い活動、グループ活動などが制限される中、子どもたちが主体的に学ぶための授業改善をしていく必要がある。

イ 保護者評価

◇上昇傾向

- ・「轍を確認してアドバイスしている」（＋0.9）
- ・「学校の勉強は大切だと話している」（＋0.6）
- ・「家庭で勉強する習慣がついた」（＋0.3）
- ・「南中生頭髪や服装など身だしなみが整っている」（＋0.6）
- ・「南中生は敬語など正しい言葉使いができる」（＋0.3）
- ・「南中生は清掃活動にしっかり取り組める」（＋0.4）

- 保護者の方には、轍を使っでの振り返り、勉強の大切さなどを家庭で指導していただいていることがうかがえる。コロナ禍での臨時休業等により、家庭での過ごし方を今まで以上に意識していただいていたのではないかと考える。学習習慣の確立は上昇傾向であるが、ポイントとしては低く、依然として大きな課題ととらえている。
- 服装・言葉遣い・清掃活動などのポイントが高く、南中が伝統的に取り組んでいる生徒指導や清掃活動の成果が表れているものとする。

◆下降傾向

- ・「あいさつを良くする、礼儀正しい子」（－0.5）
- ・「あかるく表情豊かに表現できる子」（－0.4）
- ・「あたたかい、思いやりを持った子」（－0.3）
- ・「あきらめず、粘り強く、進み続ける子」（－0.3）
- ・「南中生は学校で一生懸命勉強している」（－0.6）
- ・「南中生は礼儀正しくあいさつができる」（－0.6）
- ・「教職員は保護者と連絡を取り、しっかり話をし、連携協力に努めている」（－0.4）
- ・「教職員同士協力し教育活動に努めている」（－0.4）

- 目指す生徒像については、ほぼ下降傾向である。その原因究明と対策が必要である。
- 教職員の仕事に対する評価が下がってきている。
保護者との連携協力、チーム学校としての取り組みは昨年度からの課題であり、対策が求められる。

ウ 教職員自己評価

◇上昇傾向

- ・「あきらめず、粘り強く進み続ける生徒」(+0.3)
- ・「家庭で勉強する習慣がついている」(+0.6)

- 「あきらめず粘り強く進み続ける生徒」については、依然としてポイントは低く、保護者の認識とも異なるが、本校の大きな課題であり、今まで自己評価が厳しかったところに教職員に上昇の兆しがうかがえるのは良い傾向である。
- 家庭で勉強する習慣については、ポイントは依然として低いものの、上昇傾向が保護者と同じ認識であることから少しずつ改善されていると考えてよいと思われる。

◆下降傾向

- ・「あかるく表情豊かに表現できる生徒」(-0.3)
- ・「あたたかい、思いやりを持った生徒」(-0.3)
- ・「轍を毎回確認しアドバイスしている」(-0.4)
- ・「南中の教職員は学校の勉強は大切であると話をしている」(-0.7)
- ・「礼儀正しく挨拶ができています」(-0.3)
- ・「集会や朝礼など素早く整列できる」(-0.8)
- ・「南中の教職員は規律が保たれるためにしっかり対応をしている」(-0.7)
- ・「南中の教職員は保護者とよく連絡を取りしっかり話をしている」(-0.8)
- ・「部活動は市の方針・学校部活動運営規定に則り、適切に運営されている」
(昨年より-0.6)

- 目指す生徒像の2項目については、昨年度は横ばいであったが今年下降している。生徒アンケートの結果とはこれは保護者アンケートの結果とも似ており、その原因究明と、対策が求められる。
- 学校の勉強が大事であると話をすることや規律が守られるために対応していることのポイントが下降しているのは、やはり職員間の共通理解による共同実践をもう一度徹底する必要がある。
- 保護者との連携の部分においては急激に減少しているとともに、保護者アンケートの傾向と同じである。話をする機会がなかったのかしようとしなかったのかいろいろと原因は考えられるが、少なくとも教師から保護者に対して連絡を取る意識を持つことが重要である。
- 「部活動は市の方針・学校部活動運営規定に則り、適切に運営されている」という部分について昨年度より大きく下降している。市の部活動方針、学校部活動運営規定の趣旨を全職員が共通理解し、趣旨に沿った活動が求められる。

2、提言

(1) 挨拶の励行の呼びかけと教職員の率先垂範

川西南中学校の伝統の一つとして挨拶がある。生徒の自己評価は高いが、保護者、教職員の評価が減少傾向である。また、学校を訪れた際も挨拶が減ってきたと感じている。この原因は何かを探り、生徒への呼びかけを実施することが求められる。清掃活動は非常に良く生徒は頑張っており、今後も続けて行ってほしい。
挨拶・清掃を今後も南中で大切にしていくなめには、先生方の率先垂範が欠かせない。

(2) 学校の積極的な情報発信

学校と保護者との連携について昨年度同様低い評価となっている。決して教員が連携をとっていないわけではないと思うが、今後も保護者等に対する効果的な情報発信をお願いしたい。

(3) 生徒理解に基づく温かい指導

昨年度、生徒アンケートに加えた、「クラスの生徒はあなたのことを理解してくれようとしている」という項目と「学校へ行くことが楽しい」という項目については、相対的にポイントが低い。生徒の「居場所づくり」「絆づくり」を意識した取り組みとともに、生徒の声に耳を傾け、生徒に寄り添いながら、生徒理解に基づいた温かい指導を心がけていただきたい。

(4) 市の部活動の在り方に関する方針の共通理解・協働実践

部活動に関する項目については、市の方針に則った運営を進めているにもかかわらず、教職員間において低い評価となっている。方針の意図を教職員が正しく理解するとともに、方針と実態があっているか検証し、共通理解、協働実践を進めていただきたい。

3 保護者アンケートⅣ 学校教育に関してのご意見・ご要望について

昨年度に引き続きアンケートを実施いたしましたところ、学校運営に対して、貴重なご意見・ご要望を多数いただき、ありがとうございました。

いただきましたご意見等につきましては、今後の学校運営の参考とさせていただきたいと考えております。今後ともより良い南中を目指し、教職員一同取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記載しておりますご意見等は、主なものを記載させていただいております。ご理解賜りますようお願い申し上げます。